

東海村発足70周年記念「オリジナルフレーム切手」販売中！



村発足70周年を祝し、特別な切手が登場しました。私たちの村の風景や温かい思い出を一枚に収めた、東海村限定デザインです。日常使いはもちろん、大切な人への手紙に添えたり、コレクションとしても最適です。ぜひこの機会に、特別な一枚を手にとってみませんか。

販売価格▼1,150円(オリジナルフレームのシートに110円切手×5枚)

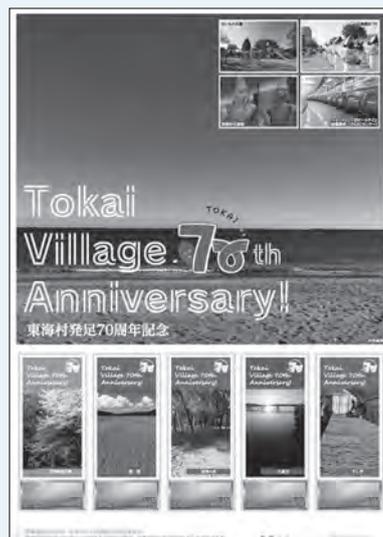
販売数▼限定400シート ※なくなり次第、販売を終了します。

販売場所▼村内および近隣自治体の郵便局(簡易郵便局を除く)、東海村役場(行政棟1階・売店)、郵便局のウェブサイト

問い合わせ▼政策推進課・村発足70周年記念事業担当
(☎282-1711 内線1306)



▲村公式HP



ふるさと歴史訪 ー自然を探してー

東海村の一番昔を見ているのは？

本年3月31日に、東海村は発足70周年を迎えました。人間なら古希祝いをする年数です。しかし、村民の皆さんには「いやいや、私は東海村になる前、村松村と石神村の頃からこの土地を見てきたぞ」という方もいらつしやるでしょう。それでは、私たちが今暮らしている「東海村」、まさにこの場所を最も昔から見ているのは一体誰なのでしょう。

それは、現在のところ、人間ではないと考えられます。というのも、東海村の台地に分布する地層を見てみると、新川層という今から約1100万年前の地層が確認できるからです。新川層は村内で確認される地層の中では最も年代が古く、堆積当時は深海200メートルほどの環境であったと考えられています。この時代には今のような人間は生まれていません。それでも、新川層の中には、地層の中からずっと東海村を見守り続けてきたある生き物たちが眠っています。



【新川層の珪藻化石(倍率100倍)/『東海村の自然』より引用】

歴史と未来の交流館学芸員

伊理 美智子(ミシエル・ハーベル)

写真は、地層の中にたくさん含まれている「珪藻」という生き物の化石です。珪藻とは、ガラス質の殻を持つ植物プランクトンの総称で、水中で生活しています。珪藻にはたくさん種類がありますが、それぞれの種に水温や水質の好みがあるため、「示相化石」としてその地層が堆積した当時の環境の推定に使えるだけでなく、比較的短い期間で新しい種が生まれるので、「示準化石」としてその地層が堆積した年代の推定にも使えます。そう考えると、東海村の一番古い時代を最もよく表してくれているのは、新川層の珪藻たちであるといえます。

歴史と未来の交流館では、7月から、東海村の歴史と東海村の宝の謎をひもとく企画展を開催する予定です。今回ご紹介した新川層についても、体験しながら楽しめる展示を用意しています。ぜひ皆さまお誘い合わせの上、歴史と未来の交流館へお越しください。

